

第4回東大阪市総合計画審議会 議事要旨

■概要

会議名称	第4回東大阪市総合計画審議会
日時	令和元年7月9日(火) 10:00~12:00
場所	東大阪市本庁舎 18階大会議室
議題	1. 開会 2. 議事案件 案件1 重点施策検討部会における検討状況(報告) 案件2 東大阪市第3次総合計画基本構想(素案)について 案件3 今後のスケジュールについて
出席者	(東大阪市総合計画審議会委員) 森田委員、安田委員、◎石田委員、富田委員、高畑委員、住山委員、茨木委員、○松浦委員、中井委員、森(雅声)委員、阪口委員、○川口委員、立花委員、鈴木委員、田野島委員、田中委員、濱橋委員、堤委員、北井委員、野口委員 欠席：森(優子)委員、衣笠委員、河邊委員、田間委員、濱谷委員、猪野委員、大久保委員、坂本委員 (◎…会長、○…副会長)
	(事務局) 経営企画部 松本部長 経営企画部企画室 竹本室長、西田室次長、谷主査、樋野主査、前田主任、南後係員、飯田室次長
会議の公開／傍聴人の数	公開／傍聴人2名

■議事(要旨)

案件1. 重点施策検討部会の検討状況(報告)

- 医学の視点での意見だが、今回の重点施策の中では、あくまでも健康であるということが前提のように感じた。健康の維持や増進といった点についても、健康増進につながるスポーツの促進など、何か少し盛り込んでいただければと思う。【委員】
⇒健康増進については、分野別の施策として基本計画に記載することと認識している。【事務局】
- 今年度より東大阪市で小中一貫教育が始まったことを会議の前に調べて知った。この会議がなかったら調べて知ることもなく、実際子育てをしている友人に聞いてみても知らなかった。いい試みをしているのに、ターゲットとなる若者、子育て世代に情報がきちんと届いていないのはもったいなく、改善していくべきだと思う。【委員】

⇒重点施策検討部会の中でも若い職員からPRが足りないのではないかという意見が出ており、その点については事務局としても重く受け止め、PRも含めた形での施策について十分検討していかなければならないと感じている。【事務局】

案件2. 東大阪市第3次総合計画基本構想（素案）について

【将来都市像について】

- 案1の「感動創造都市」がいいと思った。人口が減少し、バブル期のようにインフラがよくなっていくことは想像しにくいので、躍動はあまりないと思う。感動創造というのは自分たちでクリエイティブに何かを作っていく、今までの価値以上の感動を自分たちで創造していくという意味でいいと思った。【委員】
 - キャッチコピーは、市民が見て東大阪市ってこんなまちだよ、市外の人が見て、東大阪市は面白そうだなと思ってもらうことが必要だと思うが、今の案では少し難しいと思う。ものづくりだったらものづくり、ラグビーだったらラグビーに引っ掛けて何かをやるほうがいいのではないか。東大阪市イコール何かというイメージができるほうがいいと思う。【委員】
 - 相田みつをさんの「一生感動一生青春」というのがあるが、「一生」をつけたらどうか。子どもから高齢者まで一生感動できるまちというのが表現できるのではないかと思う。一生感動都市。【委員】
 - 文化のまちと言えば全てが含まれるので、文化を創造すればよいのではないか。「感動」はこれでいいと思う。「つくる・つながる・ひびきあう」というのは、ただ書いてあるだけで、インパクトがあるのかどうかは少し疑問である。【委員】
 - 「つくる・そなえる・ひびきあう」としたほうがいいと思う。「つながる」と「ひびきあう」は究極的にはみな共感するということなので、つなげていけるという意味では一緒。その後のところについては問題ないと思う。【委員】
 - 「一生感動都市 東大阪」だけでいいと思う。一言は記憶に残るし、文字面的にも音的にもインパクトがあると思う。それだけで十分伝わるのではないか。【委員】
 - 最初の3つの言葉を東大阪市らしい「みんなでトライ」にしてはどうか。みんなひびきあって、つくりあうということなので、3つ並べるより「みんなでトライ」という一言でよい気がする。【委員】
 - 「一生感動都市 東大阪」に賛成である。2025年大阪・関西万博があり、そのテーマが「いのち輝く未来社会のデザイン」、これに沿ったまちづくりをしていかなければいけないのではないかと思う。万博は6年後だが、総合計画は10年先を見据え、東大阪市のまち全体をバリアフリー化するなど、キャッチフレーズに負けないように、しっかりとやっていく必要があると思う。【委員】
 - キャッチフレーズはPR用と考えるべきなのか、それとも将来都市像を示すという意味でのスローガンなのか、まずそこを聞きたい。【委員】
- ⇒事務局のほうで今までキャッチフレーズという言葉を使ってきたが、「キャッチ」という言葉は、商品売り込むPR用の謳い文句がもともとの意味であり、指摘いただいたように、正式にはスローガンと考えている。【事務局】

- 将来都市像を示すのであればスローガンなので、第1案の「つくる・つながる・ひびきあう」は都市像を示すという意味では非常によくできていると思うが、PRに欠ける。PR用として打ち出す場合は、製造業という観点をに入れて「感動製造都市」とする。感動を製造するというのとはどういうことなんだ？というような考え方のインパクトもあると思う。将来都市像を示すものであればスローガンとして今の案を掲げて問題ないと思う。【委員】
- 一般市民から公募して、みんなに知らしめるとPR効果があると思う。次回7月30日までということで日程的に厳しいと思うが。【委員】
⇒多種多様なご意見をいただいた。再度検討という形で次回お示しをさせていただければと思う。【事務局】
(休憩)

【基本構想全体について】

- 東大阪市の特徴に歴史の観点をに入れていただきたい。日下町には神武天皇のルーツがある。歴史を忘れた民族は滅びるといわれており、ぜひ取り上げていただければと思う。【委員】
- 障害者にやさしい安心して暮らせるまちづくりというのはどこかに入っているのか。【委員】
⇒基本構想に基づいた基本計画の中で障害者の方への支援を記載することになると考えている。【事務局】
- 高齢者の活躍というところで、高齢者というのはどういう方を高齢者と考えているのか。「高齢化率は年々上昇し、75歳以上の人口の急増」と書いてあるが、この75歳は65歳から10歳離れている。何か理由があって75歳としているのか。【委員】
⇒高齢者は、高齢福祉の定義で65歳以上と認識している。また、今の行政の施策の中で、健康・保健の分野などでは75歳以上を後期高齢者と呼んでいる。【事務局】
- 高齢者が住み慣れた地域で暮らせるよう支援という部分で「幅広い世代の人々と交流しながら生きがいをもって暮らすことができるまちづくりが求められます」というのは、抽象的な言葉で終わっているような気がするが、具体的にイメージしているのか。【委員】
⇒具体的にはボランティア活動、地域コミュニティ、自治会等での地域との関わりや、地域の子育てに関わっていただくとか、リタイア後の趣味や、それまで培ってきた経験を生かして何かの活動をするということを想定している。【事務局】
- 土地利用の方向性②のところ、「住工共生に配慮した保全を目指します」という文言に対して、前回は行われた会議で住宅の進出が進み、住工混在の状況から工場を保全するというので、いわゆるゾーニングを行うという方針と考えているが、立地適正化計画の中でも新たな住工混在の発生を抑制するという文言が書かれており、住工共生という文言が今まで1回も出てきたことがないと思う。これはどこから出てきたのか。【委員】
⇒東大阪市では住工共生のまちづくり条例を制定している。工業地としてこれから

も操業をしていくべきエリアについては、新たに来る人にも工業地であることに対して一定の理解を求めた上で住んでいただく、そういう取り組みを進めましようというのがこの条例の趣旨である。双方の理解を進めた上で、工業地としても発展していきたいということで、住工共生という言葉を使っている。【事務局】

- 大学のまちと書いており、これを推していくべきだと思うが、子育て世代のことを考えると、保育園、幼稚園から小中高大学と、子育て世代が安心して子どもを大学まで進学させることができるというところを背景に入れていただいたほうがいいと思う。【委員】

- 長く住んでもらうためには、東大阪市の魅力を高め、都市間競争に勝てるようになることが必要である。6月に文化創造館ができるが、大阪では堺、高槻にも今後ホールが整備され、少し前には豊中にも整備されている。例えば東京からオーケストラが大阪でやりたいと思ったときに、東大阪市の文化創造館がいくつ目にも選ばれるのかということがすごく大事だと思う。東大阪市の持つ魅力を都市間競争に勝てるように持っていくという視点がストレートに出てもいいのではないか。【委員】

⇒人口が減少する中で、大阪府下3番目の人口を擁する都市ではあるが今後さまざまな魅力を磨き上げて選ばれる都市になるという点については、重点施策でも若者・子育て世代に選ばれるまちという形で示しており、「選ばれる」という言葉は都市間競争に勝つというメッセージも発信しているものと考えている。もっとストレートに出すということについては十分検討したいと思う。【事務局】

- 「子どもや若い世代の減少は、地域の衰退を招きます」とある。P15に定住意向のアンケート結果で府の平均が示されているが、大阪府43自治体の中で、若者が集まっている状況について、東大阪市の位置がわかるものがあるか、次回までに調べていただきたい。【委員】

⇒比較できるような形で資料を整えたいと思う。【事務局】

- 「大阪に住むなら東大阪」とあるが、生駒に行く人も多い。なぜ大阪なのか。【委員】

⇒東京から大阪に来た時に、住むなら東大阪に住んでもらいたい、という趣旨である。大阪ではなく関西でもよい。【事務局】

- 子どもたちの教育に関し「健やかな体や豊かな心を育む」ことに対しては一生懸命取り組んでいるが、「確かな学力を身につける」ということが顕在化していない。学力に関する記述を文末に移動させ、力を入れる部分の方針が的確にわかるよう表現を変えてほしい。P25も同様である。【委員】

⇒事務局の意図としても、あえて子どもたちの学力について言及し、確かな学力を身につけていくということが今後東大阪市の教育における大きな課題であるという認識のもとでこのような表現をしており、今の意見を踏まえて検討する。【事務局】

- 土地利用方針は、人口回復の1つの大きなポイントになるのではないと思う。特に東大阪市のにおいては、ほぼ全域が市街化されている状況なので人口が回復できない、これを何とか進むようにすることが大切なポイントではないと思う。

総合計画の中の文言としては、例えば土地利用の保全もするわけだが、保全と更新とか、そういうような言葉もあってもいいと思う。現在、交通条件が改善され、マンションなど増えてきていると思う。そういう動向を受けながら、それをさらに促進していく、それによる新たな問題が生じないように対策を打っていくというような施策を検討して頂きたい。【委員】

⇒確かに東大阪市はほぼ全域が市街化され、土地がないと言われている。ただ、モノレールも事業化され、交通利便性のポテンシャルが高く、既存の市街地が過密となっているところでも、新たな建て替えなどの動きも見られる。そういう開発の動きを止めないような、ある意味呼び込むような規制と誘導について、今後きめ細やかな対応が必要になってくると思う。その辺は今後基本計画ないしは実施計画で検討していく。【事務局】

- 教育設備に関して、洋式トイレ化と、もう1つIT環境の向上として、教科書にQRコードを入れて、タブレットをかざして子どもたちが学習するというような方向性になっているので、この2つを選択と集中の考え方の中で優先順位を上げていただきたい。20歳代+30歳代、教育、子育て世代のアンケート結果で「子育て環境が充実したまち」というのがナンバーワンになっており、今の学校教育における教育環境の充実もこれに向けてということになると思う。【委員】

⇒子育て層の方に東大阪を選んで住んでいただくということをねらうなかで、子どもたちの学力や学校教育環境に重点を当てるべきだろうという重点施策検討部会での議論の結果を踏まえ、資料1にそのように示している。より具体的な、IT化の推進や学校施設の更新と整備については現在進めており、そういったところも含めて、基本計画に記載できるような形で調整したい。【事務局】

案件3. 今後のスケジュールについて

- 質疑なし

以上